

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月9日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530882

研究課題名（和文） グローバル化時代のメキシコにおける多文化教育に関する研究

研究課題名（英文） Research on Multicultural Education in Mexico in the Era of Globalization

研究代表者

青木 利夫（AOKI TOSHIO）

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：40304365

研究成果の概要（和文）：

メキシコ国立図書館をはじめ関係機関において、同国の多文化教育に関する資料の調査収集をおこなった。資料の分析を通じて、20世紀後半、多様な先住民文化を承認する複数文化主義へと国家理念が変容するなか、それにともなう先住民教育政策の大きな転換には、二言語教師を中心とした先住民集団の組織化や先住民による権利要求運動の拡大が影響を与えたことを明らかにした。さらに、グローバル化時代において多文化教育が導入されることの問題点を考察した。

研究成果の概要（英文）：

A lot of materials dealing with multicultural education in Mexico were collected from a few research centers, including the National Library. Through analyses of the materials, I discovered that the organization of the indigenous people and their social movements toward their own human rights had greatly affected the change of the educational policies for the indigenous people with the introduction of “pluriculturalism” in the second half of the 20<sup>th</sup> century in Mexico. Also, I explicated the issues of multicultural education in the era of globalization.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：メキシコ教育史

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：メキシコ・グローバル化・多文化主義・多文化教育・先住民教育・二言語文化間教育・農村教育・インターカルチュラル大学

## 1. 研究開始当初の背景

メキシコにおいては、1910年の革命勃発以後、10年間におよぶ内乱の時代を経て、国

家統合と経済発展が国家の目標とされ、学校教育の普及がその目標を達成するための最重要課題のひとつとして位置づけられた。とりわけ、先住民が多く居住する農村地域にお

ける教育活動に、国家は積極的に関与した。その根底には、「文明」から取り残され「遅れた」ままの状態にある先住民を救済し、国家へと同化・統合しようとする思想が流れていた。

しかしながら、1960年代後半ごろから、そうした統合主義的先住民政策に強い批判が出されるようになり、先住民の権利やその文化に対する配慮が求められるようになった。教育政策においては、1970年代後半から「二言語・二文化教育」が、そして、1990年代には「二言語・文化間教育」が導入され、先住民の言語や文化が教育のなかで積極的に取り入れられるようになる。さらに、1992年には憲法改正により、メキシコは複数文化から構成される国であることが法的に規定され、先住民の文化が形式的には承認されるにいたる。

一方、政治経済的にこの時代を見るならば、対外債務の増大を原因とする1982年の経済危機を背景に、IMFなどの国際機関が提案する「構造調整プログラム」を受け入れ、世界のグローバル化の流れのなかで、これまでの国家主導の経済政策から、市場を中心とする新自由主義的な政策へと大きく転換する時代であった。すなわち、メキシコ政府は、憲法の改正によって、それまでの同質的な国民文化の創出による国家統合の理念を転換し、複数文化主義を導入して先住民文化を承認する一方で、先住民が強く反対する新自由主義やグローバル化の政策を積極的に推進していったのである。

こうした背景から、グローバル化と新自由主義の時代において、いわゆる「多文化教育」がいかなる可能性と問題性を秘めているのか、教育が多文化共生社会に向けていかなる役割を果たしうるのかといった問題について考察するうえで、新自由主義政策を積極的に起こってきた20世紀後半のメキシコを事例として検討することに意義があると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、グローバル化と新自由主義の時代において、多文化教育がいかなる可能性と問題性を秘めているのかを探るため、メキシコの20世紀後半における先住民教育に焦点をあてて検討することを目的とした。とりわけ、1970年代以降に開始された先住民居住地域における「二言語・二文化教育」の成果と問題点の検討したうえで、1990年代に「二言語・文化間教育」が導入され、21世紀に入ってそれが制度化されていく過程に着目した。具体的には、以下の点を明らかにすることを目的とした。

(1) 20世紀なかばごろから影響力をもち

はじめた二言語教師（スペイン語と先住民言語の両方を話す教師）がどのように養成されてきたのか。

(2) 二言語教師が、全国二言語先住民専門職同盟などの専門職集団を組織したり、教育省の要職に登用されたりしたことによって、先住民教育政策にどのような影響を与えたのか。

(3) 「二言語・二文化教育」の意義と問題点を踏まえ、どのような過程を経て「二言語・文化間教育」へと転換したのか。とくに、1990年代の前半の複数文化主義国家を規定する憲法改正とそれともなう教育法改正に着目する。

(4) 国家と先住民の両者が、多文化教育政策をそれぞれどのように利用したのか、またそれをめぐって両者がどのような交渉を繰り広げたのか。

## 3. 研究の方法

本研究は、メキシコにおける多文化教育に関連する文献・資料の分析を中心に進められた。文献・資料の調査ならびに収集は、メキシコ国立図書館、メキシコ公教育省歴史文書館をはじめとする関係機関において、以下の視点からおこなわれた。

(1) 教員養成のための機関、制度、政策のうち、二言語教師養成に関する文献・資料。

(2) メキシコの農村教育、先住民教育、多文化教育、二言語教師に関する先行研究および統計資料。

(3) メキシコの多文化教育に関する資料、および関連の会議やシンポジウムなどの記録や報告書。

(4) 二言語教師や視学官による報告書、自叙伝、回想録、日記など。

(5) 全国二言語先住民専門職同盟など、二言語教師集団に関する資料。

(6) 「二言語・二文化教育」および「二言語・文化間教育」に関する資料。

(7) ILOの条約第169条の批准から憲法改正、教育法改正に関する資料。

(8) 教育関係の官報、雑誌や新聞の記事。

(9) メキシコの先住民政策全般、歴史、教育、文化、政治経済社会全般に関する資料。

収集した上記の資料については、以下の視点からこれを分析した。

(1) 二言語教師養成のための機関やプログラムが、いつ、どこに、どのようなかたちでつくられたのか、そして、どのような教育実践がおこなわれ、どのような成果と問題点があったのか。

(2) どのような二言語教師集団が組織され、どのような主張を展開したのか。

(3) 二言語教師は、国家や地域住民の間においてどのような関係を取り結び、どのよう

な役割を果たしたのか。

(4) どのような過程を経て「二言語・二文化教育」が導入され、それが「二言語・文化間教育」へと移行したのか。それらの教育政策にはどのような意義と問題点があったのか。

(5) 憲法と教育法の改正にみられる先住民の権利や自治の承認は、先住民教育政策にどのような影響を与え、どのような意義と問題点があったのか。

(6) 新自由主義政策およびグローバル化の潮流が、多文化主義教育にどのような影響を与え、そこにはどのような意義と問題点があったのか。

また、資料調査とその分析のほかに、現在、先住民居住地域に設置が進められているインターカルチュラル大学(メキシコ州およびベラクルス州)を訪問し、授業を参観するとともに、関係者に対するインタビュー調査をおこない、先住民に対する高等教育の事情を視察した。

#### 4. 研究成果

関係機関において収集したメキシコの多文化教育に関する資料をもとに、20世紀前半から現代にいたるメキシコの農村教育・先住民教育の変遷と、そこにみられる問題点について、上述のような視点から検討を試み、以下のような結論を得た。

(1) 20世紀前半の同質的社会の構築による国家の発展をめざした先住民統合主義にもとづく国家の統合理念が、20世紀後半には、先住民文化の多様性を承認する複数文化主義へと変容し、それにもなつて「二文化・二言語教育」、「二言語・文化間教育」の導入という先住民教育政策の大きな転換があった。

(2) そこには、グローバル化にともなう国内外の政治的・経済的变化のなかで、国際的な人権擁護の意識の高揚、ILO条約第169条批准などの国際社会に対応した変化とともに、先住民自身による権利要求のための組織化や運動の拡大が影響を与えた。

(3) とりわけ、農村教育・先住民教育を担う専門職として20世紀前半に誕生した農村教師が、20世紀後半には、二言語教師として先住民集団を指導し、先住民教育政策の転換に影響力をもちはじめるとともに、多文化教育を担う重要な役割を果たすようになった。

(4) しかしながら、新自由主義政策のもとでの統合主義から複数文化主義への理念および政策の転換は、先住民の人権尊重につながる一方で、先住民政策に対する国家の関与の低下をもたらし、自主管理の名のもとに必要な支援の切り捨てにつながる危険性をともなっていた。

以上の研究成果は、原著論文として学術雑誌にこれを発表するとともに、所属学会および国際セミナーにおいても口頭で報告をおこなった。また、インターカルチュラル大学については、その歴史も浅く、試行錯誤の段階にあると思われ、現段階ではその評価が難しく、メキシコにおいても先行研究は少ない。こうした状況から、これらの大学が先住民教育にどのような影響を与えていくのか、この点については今後の課題としたい。

日本においては、メキシコの教育史ならびに先住民教育に関する研究が若干あるものの、その蓄積はきわめて少なく、本研究は、日本におけるラテンアメリカ地域研究および「多文化教育」に関する事例研究の蓄積に貢献する。また、海外においても、グローバル化におけるメキシコの先住民教育改革を、新自由主義政策との関連において検討する研究ははじまったばかりであり、本研究は、グローバル化時代におけるメキシコの多文化教育の変遷とその意義に関する研究に貢献する。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. Aoki, Toshio, El centenario de la independencia como espacio social: el caso de Guadalajara, México, 文明科学研究, 6巻, 査読有, 2011, pp.13-20

2. 青木利夫, メキシコにおける農村教師養成の歴史にかんする一考察, 文明科学研究, 5巻, 査読有, 2010, pp.21-34

3. 青木利夫, メキシコにおける二言語・文化間教育の導入をめぐる一考察, 文明科学研究, 4巻, 査読有, 2009, pp.1-16

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA1219867X/Studies-in-Cultural-Sciences\\_4\\_1.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA1219867X/Studies-in-Cultural-Sciences_4_1.pdf)

[学会発表] (計3件)

1. Aoki, Toshio, Comentario (La historia de los movimientos indígenas y el multiculturalismo en México), Seminario Internacional "Estado, Ciudadanía y Movimientos Sociales en Tiempos de Globalización en las Américas", 2011年9月6日, リマ(ペルー)

2. 青木利夫, メキシコにおける多文化主義と先住民教育, 日本比較教育学会, 2010年6月27日, 神戸市

3. 青木利夫, 20世紀前半のメキシコ農村教育における初等教育と教師, 近代社会史研究会, 2009年12月12日, 京都市

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木 利夫 (AOKI TOSHIO)  
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授  
研究者番号：40304365

(2) 研究分担者 該当なし  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 該当なし  
( )

研究者番号：